



FUKUSHIMA NEXT

人から始まる、新しい福島。

自分たちの伝えたいことを、自分たちの言葉で。

福島県双葉郡大熊町大川原地区。2019年4月に避難指示が解除されて、新しい町づくりが始まりました。

そこでの暮らしを綴った新聞が「大川原LIFE(ライフ)」です。

取材から手書きの記事執筆まで、町職員の皆さんが担当されています。

「若手職員の有志で、何か自分たちでできる事業やろうよって話になりました」と大熊町出身の佐藤さん。

「この地区の瓦版のようなものをつくらない？」と提案したのは長崎県出身の喜浦さん。

「外側の人とその目とその言葉で伝えるものじゃなくて、内側の人間が自分たちの言葉で伝えたい」

そのタイミングが「避難指示解除」「帰還」でした。

「大川原LIFE」創刊号の発行は、2019年10月。

それ以来毎月「新しい施設のオープン」「双葉郡の地酒紹介」「帰ってきた夏祭り」「居酒屋開店」など、復興の足取りを発信し続けています。

大熊町の、そして福島の「この先」について伺いました。

「今大熊町は大きく変化しています。何か新しいことが起きやすい、そんな土壌が少しずつ育っているのでは。

その変化こそがおもしろさなのかもしれません」と喜浦さん。

「先進技術が集結するような地域になるのかなと思っています。人にも環境にも優しい先進的な地域になればいいと思います」と佐藤さん。

「そして何よりも福島ってとにかくいいところだと、胸を張っていえるようにしたいないつも思っています」

「大川原LIFE」は大熊町ホームページで閲覧できます。ぜひご一読を。

福島、その先の環境へ。

震災から10年が経過しました。福島の復興はまだ道半ばです。

環境省は引き続き除染をはじめとする環境再生事業を安全かつ着実に進めていくとともに、再生可能エネルギーの促進など脱炭素まちづくりの取組や、「ふくしまグリーン復興構想」の推進など、復興に向けた未来志向の環境施策を福島県と連携して取り組んでいます。

“FUKUSHIMA NEXT”は環境再生地域へ、リブランディングを目指す方々を応援する取組です。

環境省と福島県では、この“FUKUSHIMA NEXT”広告や活動を通じて、大熊町の皆さんのような福島の未来に向けてチャレンジしている方を応援していきます。

福島、その先の環境へ。



環境省

“FUKUSHIMA NEXT”に登場していただける方を募集いたします。詳細はこちらから

[福島、その先の環境へ。](#)

[検索](#)

